

シンポジウム

# パブリックアートと東京

都市の公共空間におかれたパブリックアートは、都市文化の中心でもあり、またその背景でもあります。現代都市に欠かせない存在としてのパブリックアートが、東京でいかなる姿を見せ、いかなる存在であるべきかを考えます。新型コロナ後も見据えた議論を展開します。

主催：江戸東京研究センター「テクノロジーとアート」プロジェクトチーム  
本年3月から開催が延期となっていたシンポジウムをオンラインにて開催します。

## ◆ 基調講演

北川フラム 「地域型芸術祭のいま?!～社会のインフラとしてのアート～」  
(アートディレクター、(株)アートフロントギャラリー代表取締役会長、福武財団常任理事)

## ◆ 講演

高田洋一 「パブリックアートの制作現場から一作品との新しい出会い方」  
(彫刻家、美術家)

藤井匡 「パブリックアートのつくる公共性」  
(東京造形大学准教授)

荒川裕子 「パブリックアートの受容のありかたをめぐって」  
(法政大学キャリアデザイン学部教授)

パネリスト：岡村民夫(法政大学国際文化学部教授)  
岩佐明彦(法政大学デザイン工学部教授)  
岩井桃子(キュレーター)

挨拶：高村雅彦  
(法政大学江戸東京研究センター長・法政大学デザイン工学部教授)

司会：山本真鳥  
(プロジェクトリーダー・法政大学経済学部教授)

2020年11月28日(土)

13時~17時

オンラインにて開催  
事前申込が必要です  
参加無料

事前申込はこちら

<https://forms.gle/KXM9M6rgE99nHvqR7>

